



恒例の年末感謝パーティー

「一人ひとりとつながり合うことから」(前編)

山城青少年少女会(徳島県) 篠原 浩一

まずは「教会にいくね」

山城教会は、四国のほぼ中央に位置し、四国の秘境といわれ、祖谷、大歩危小歩危で有名な、険しい山あいの中の小さな町にあります。町は過疎化が激しく、かつては1万4千人程いた人口も今では5千5百人程になっており、当然子供の数も激減している地域であります。

それに、交通の便の悪いところですから、親と一緒に車で来ないと子供が一人で教会に来るということは不可能に近い地理的環境にあります。また、信者さんにも世代交代の波があり、当然、子供の数にも大きな波がある状態です。

そういう中で、教会ではその時その時代その人数に応じて、青少年を対象とした様々な活動をさせて頂いております。特に一番大切にさせて頂いているこ



月例祭（13:30）の前に教会で昼食を頂きます



川之江親教会（愛媛県）まで、初代のご苦労に思いを馳せ、山越えの30数kmを徒歩で参拝

とは、活動それ自体ではなく

「参拝」ということです。というよりも「教会に来る」と言っただ方がいいかも知れません。

もちろん最初は親が参拝の折りに子供を連れて来るわけです。幼い頃から親に連れられて教会に何度も来ることにより、教会に慣れ親しんでいく。

家族で気軽に遊園地やレストランに行くように教会に参る。子供を取り巻く環境の中に、日常生活の中に教会があるということ。そして神様がおり信心があ

るということ。

そのために、子供を連れて参拝、家族揃っての参拝ということの大切さを、親御さん達に理解を求め、信心の中身として取り組んで頂いており、そうして教会に子供が集まるところから、青少年活動もさせて頂くことができてまいりました。

当教会の青少年への信心後継、お道伝えは、まず「教会に来る」「教会に慣れ親しむ」「お道の信心に触れる」ということを基本とし、土台とさせて頂い

ております。当教会ですすめている青少年活動も、子ども達が教会に来る回数を少しでも増やし、より多く教会・神様・信心というものに触れ、慣れ親しむこと。そしていづれ、お道の氏子となって頂くための補助作用として、青少年の特性にあわせて様々な活動をさせて頂いております。また普段の参拝はもとより、あらゆる行事・機会を通じて教会に触れるようにさせて頂いております。

教会の敷居を低くする

そういうことから、青少年活動の第一歩は、月例祭の時など子供が教会に来た時に、子供に教会で自由に遊ばせるということから始まります。つまり、教会の敷居を低くしていくということです。教会の敷居を低くするというのは、先生をはじめそこにいる他の子供や大人達との

間の敷居を低くするということです。

お道の信心は人から人へと伝わっていくものでありますから、その敷居が高いと、なかなかお道を伝えることができません。特に先生やリーダーのような、お道を伝えようとする人間、その子をお道の氏子として育てようとする人間との間の敷居を低くし、その間柄が親しくなっていくことが大切です。そしてそこから、お道の信心・神様との間の敷居を低くし壁を取り除き、神様とつながっていくことのできるようになります。

人間は知らない人のいる所にはなかなか行けないものです。先生や信者さんと慣れ親しみ、教会に行くのに、先生や信者さんに会うのに何の気兼ねもないような心になって頂くことを心がけています。

当教会の青少年活動には、音



大祭準備の大掃除では、屋根にまで上がってしまいます



「ちびっ子の集い」の朝と後にはみんなでご祈念をします

教会はわが家の一部

そんなこともあってか、ある時こんなことがありました。ある高校生の女の子が教会にやって来て、「先生、今日友だちと一緒に教会に泊まるけんね」と言うのです。「今日友だちと一緒に泊まってもいいですか」と聞くのが一般的だと思うのですが、この女の子にとっては、教会に泊まるのは当たり前で、またそのことを先生に伝えるのに事後承諾は当たり前で、また遠慮をする所ではないということも当たり前なのです。わが家の一部なのです。

これがいいか悪いかは別に、それほど慣れ親しんでいるということなのです。幼い頃からずっと教会に来ている子は、ほとんどがこんな感じですが、だから教会に友だちを連れてくるのにも抵抗がないのです。

この「一泊集会」は、子供達が大きくなって勉強や部活で忙しくなったりして、定期的な行事としてはできておりませんが、今も子供達は時々教会に泊まりに来たり、教会で晩ご飯を食べて帰ったりしております。

また最近、信者さんのところに幼児から小学校低学年の子供が増えて来たこともあり、今年から、やはり第2日曜の月例祭にあわせて、小学校4年生以下の子ども達を対象に「ちびっ子の集い」というものを始めさせて頂きました。

内容はゲームやビデオを見たりして遊んでいるだけなのですが、これも同様に、小さな子供のうちから教会に慣れ親しむことを願っての取り組みです。と同時に、できるだけその親御さんも一緒に教会での時間を過ごし、さらに親子が揃って月例祭に参拝させて頂くことを願ってのことです。

楽隊活動、キャンプやスポーツなどの野外活動、パーティーや歓迎会などのレクリエーション、全国大会や教区の行事への参加、青年会活動などがあります。その他にも沖繩道管収集奉仕活動やゴミ拾い等の社会奉仕活動、教会のお茶摘み、大祭の御用奉仕や吉備舞・典楽の御用などがあり、ほとんどの教会行事に青少年が関わるようにしています。

その中で教会や信心に慣れ親しむ活動の一つとして、3年間ほど「教会一泊集会」というこ

ともさせて頂いたことがあります。これは子供達が小さい頃からよく教会で寝泊まりしていたということもあって、第2日曜日の家族参拝月例祭にあわせて、土曜日の夜から教会に集合して、みんなで修学旅行のようにワイワイガヤガヤしながら、その日は一緒に教会に泊まり、翌日の月例祭に参拝して、その後、スポーツやレクリエーションなどの活動をして解散というように毎月最低一回は開催していました。